

# 令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・理科のステップ学習プリントや補充の問題等を単元の終末に行ったことで知識の定着が見られた。
- ・「考察とらの巻」を活用して指導したことで、学習課題に対する答え（結論）の書き方や考察の書き方が、身に付いてきている。
- ・実験器具をなるべく多く用意して実験をさせたことで、一人一人が意欲的に取り組むことができた。

### (2) 課題

- ・観察や実験の場面では、ICT 機器を効果的に活用することが難しかった。意図的に ICT 機器を使った記録をする機会を設定し、技能を高めていく必要がある。
- ・学習したことを生活場面に置き換えて考えることが難しい。生活経験や既習事項を想起させる働きかけを行っていく必要がある。
- ・メダカや植物等の成長の観察では、環境設定が上手くいかず、継続的な観察をすることができなかった。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	・「知識・技能」は、1.6ポイント上回り、「思考・判断・表現」は、2.9ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は、1.1ポイント目標値を下回った。		
第5学年	・「知識・技能」は、3.6ポイント、「思考・判断・表現」は、3ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は、1.1ポイント目標値を下回った。	・「知識・技能」は、4.5ポイント、「思考・判断・表現」は、7.4ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は、9.9ポイント目標値を下回った。	
第6学年	・「知識・技能」は、11.9ポイント、「思考・判断・表現」は、9.6ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は、11.1ポイント目標値を下回った。	・「知識・技能」は、10.3ポイント、「思考・判断・表現」は、5.3ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は、11.6ポイント目標値を下回った。	・「知識・技能」は、2.9ポイント、「思考・判断・表現」は、1.3ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は、5.5ポイント目標値を下回った。

### (2) 分析（観点別）

#### ① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な理科用語や適切な実験技能の定着に課題がある。</li> <li>・生活経験を基にして、学習内容を確実に理解できている児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠を明らかにして、予想を考えることに課題がある。</li> <li>・学習した知識を基に説明することに課題のある児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察カードを書く際、観点や見通しをもって詳しく書くことに課題がある。</li> </ul>

#### ② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・用語の理解の定着に課題がある。</li> <li>・実験技能の定着に二極化傾向がある。</li> <li>・学習用語とその用語の意味を関連付けて覚えていない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条件制御に関わる学習では、授業の実験には問題なく取り組めているが、テストで取り組むと正答率が低くなる。</li> <li>・結果を基に、学習課題に対する答えを考えられない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・観察に対して意欲的に取り組む姿が見られる一方で、すすんで問題を見だし、見通しをもって自ら問題解決ができる児童は少ない。</li> </ul>

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>理科の重要用語は、目立つように板書し、ノートに確実に写させる。</li> <li>教師が実験器具の使い方を提示したり、デジタル教科書の動画を確認したりして、適切な実験技能を身に付けさせる。</li> <li>必要に応じて補充の問題やプリントを用意し、知識の定着を高めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験結果から分かったことを書く際には、考える視点を提示する。</li> <li>自分の考えを絵やモデル図、理科の用語を使いながら説明したり、結果をまとめたりする活動を定期的に取り入れ、表現力を伸ばしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の関心を引き付けられる事象提示を行い、自発的に問題発見ができるようにする。</li> <li>実験器具をなるべく多く用意したり、実験中に一人一人に役割を与えたりすることで、実験や観察を自分事として捉えられるようにする。</li> <li>観察カードを記入する際には、観点を示したり、何をどのように書けばよいのか分かるように適宜声かけしたりする。</li> </ul>

#### (2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>プリントを活用して児童の理解度を把握したり、必要に応じて補充の問題やプリントを用意したりすることで、知識の定着を高める。</li> <li>実験では、個人が繰り返し試行できるような、環境設定を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>条件制御に関する問題を意図的に設定し、実験結果の分析を個人で行えるようにする。</li> <li>学習課題に対する答えの書き方を指導するとともに、活用する機会を意図的に設定していく。</li> <li>教科書の「たしかめよう」「学んだことを生かそう」にクラス全体で取り組み、答えを共有させたりや答え方を指導したりすることで表現力を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業では、問題解決の流れを意識させる。児童が疑問を抱いたり、関心をもったりすることができる導入の工夫をする。</li> <li>観察や実験の場面では、ICT 機器を活用することで、観察・記録を容易に行えるようにする。</li> <li>実験器具をなるべく多く用意したり、実験中に一人一人に役割を与えたりすることで、実験や観察を自分事として捉えられるようにする。</li> </ul>